北朝鮮

変貌を続ける独裁国家

平岩 俊司 (著)

１５０７８１１３３　大西陽文

序章　北朝鮮分析

1.北朝鮮情勢

→不透明

理由：正確な情報精査不可能

北朝鮮自身が高度な情報統制

↓

行動　予測不能

1.政治的特徴

分断国家

→　朝鮮戦争の結果

（国際的対立が原因）

第一章　朝鮮半島分断

1.南北分裂

　朝鮮戦争、植民地統治　終焉

　北朝鮮　３８度線の設定

　理由：日本の武力解除＆降伏受理

2.金日成の登場

　　共産主義運動の中心自分物

　　↓

　　朝鮮臨時人民委員会　就任

1.戦争準備

全日成　目標：朝鮮統一

軍事協力を要請

ソ連：軍将校の育成、戦力増強

中国：軍事協力を要請

↓

内容：対南攻撃の留保

1.開戦

北朝鮮：スターリン　「援助する意思あり」

毛沢東　開戦を承諾

↓

理由：　韓国信仰抑止

宣言：「祖国統一と独立、自由、民主主義の戦争」

2.休戦協定

戦争　長期化・・・　（VS　国連軍）

↓

7月2日　休戦協定　締結　（管理：中立国監視委員会）

※韓国抜

第二章　金日成と全体思想

1.金日成と全体思想

休戦　→後興

路線：重工業優先

権力闘争敗北　危険性

→　「八月全員会議事件」

・・・ソ連派・延安派など反金日成派　排除

1.4大軍事路線の採択

朝鮮半島

→　安全保障環境締結（中国・ソ連）

日韓国交正常化

↓　危機

1．全人民武装化

2．全国土要塞化

3．全国現代化

4．全軍幹部化

意図：国防力　強化　　But.　世界　経済制裁

1.体制維持システム

a政治の自主

b経済における自主　　→「主体思想」

c国防における自衛

軍隊　：　人民へ政治教育の必要性

↓

特徴　「現地指導」

→　金日成　自ら指導

第3章　　北朝鮮　劣勢

1.金日成　息子（次期後継者）　　『金正日』

抗日パルチザン闘争

唯一正当な闘争

1968年1月　　韓国大統領官邸　襲撃

数々　武装ゲリラ

→　韓国に侵入

↓　北朝鮮　強行

対南政策

1.後継者　金正日

1974年　2月3日

政治委員会　選出

4月14日

「唯一思想体系確立の10原則」

1970年代

大衆動員運動

→「3大革命小組運動」

「３大革命赤旗争運動」　展開

1.大韓航空爆破事件

オリンピック阻止

→大韓航空機　爆破

北朝鮮　工作員　拘束

テロ発覚

テロ国家　印象大

結果

ソウルオリンピック成功

韓国

→国際社会地位獲得

第4章　北朝鮮危機

ソ連　ゴルバチョフ書記　登場

↓

東西冷戦終結

韓国

ソ連、中国　関係正常化

↓

北朝鮮　孤立

1.東欧社会主義陣営　崩壊

中国：　学生　天安門広場　占拠

1996年6月4日　中国人民解放軍　学生排除

東欧　社会主義陣営　崩壊、消滅

北朝鮮

分断国家　＝　体制強固

→　崩壊せず

金正日　最高司令官　国防委員長　就任

→　3本の柱の１つ　獲得

（党、国家、軍）

1.金成日　死去

東西冷戦　終結

→　北朝鮮　経済不安定

金成日死去　3年間　指導者不在

1997年　金正日　就任

↓

3本の柱　獲得

国家ポスト　肥大化　統治

→　直接的物理的強制力　統治

第5章　核とミサイル

1.ミサイル発射、核実験

テポドン発射

1999年　8月　テポドン発射実験　強行

目的：金正日体制　始動　祝賀

主張：人工衛星　平和利用

事前通告せず　　関係諸国など

→　国際社会へ挑発行為

1.2006年　10月　安保理決議

弾道ミサイル発射　禁止　決定

北朝鮮　ミサイル強行

目的　1.自国ミサイル能力　アピール

2.ミサイル発射実験　成功

→　国威発揚　象徴

国連安保理

制作強化　慎重意見多数

第6章　金正恩体制のゆくえ

1.相次ぐ事件

韓国　天安号　北方限界線付近　沈没

限界線とは？

→　北朝鮮会場軍事境界線

北朝鮮　犯行　あり

（さまざまな評価あり）

1.遺訓政治の制度化

金正日　急逝

→　メディア　　金正恩「卓越した領導者」

後継者　イメージ大

最高司令官　命名

1.「人工衛星」　発射

米朝宣言

核実験、ウラン濃縮中止、ミサイル中止

↓　見返り

北朝鮮　24万トン　　食糧支援

実際：　人工衛星　発射予告

目的：　平和利用（宇宙）

1.長距離弾道ミサイル　発射

2012年　「光明星3号」

国際機関など　事前通告

↓

12月　人工衛星　軌道投入　成功

結果：　朝鮮半島　緊張　上昇

まとめ

・北朝鮮　閉鎖的状況打破　チャンス
・北朝鮮暴走　阻止する術迷走